

知事記者会見の概要

日 時：令和3年9月8日(水) 10:00～10:46

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 感染拡大防止特別集中期間について
- (2) 副知事について

フリー質問

- (1) 自民党総裁選に関する知事の所感について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 山形県警の不祥事に関する知事の所感について
- (4) 芋煮会について
- (5) ワクチン接種拡大後の行動制限緩和に関する分科会の提言について

< 幹事社：朝日・荘内・NHK >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。めっきり、涼しくなってきました。季節の変わり目ということで、寒暖の差が大きい日が続いておりますので、県民の皆様には、体調を崩されませんように、くれぐれもご注意いただきたいと思います。

さて、東京 2020 パラリンピックが閉幕しました。このパラリンピックの間中、多くの選手が大活躍をしてくださいます、全世界に勇気と希望、感動といったことを与えてくださったと思っております。

本県出身の 4 人の選手たちも、本当に懸命に戦っておられまして、存分に力を発揮されたのではないかと思っております。爽やかな感動を私も覚えたところであります。県民に元気と、それから大きな活力を与えてくれた。感動を与えてくれたと思っております。選手の皆さんには、今後もますます活躍して下さることを願っておりますし、みんなでも期待したいと思っております。本当にお疲れさまでした。

さて、新型コロナについて申し上げます。感染拡大防止特別集中期間に入りましてから、本日で 20 日目となります。1 日当たりの新規感染者数が 10 人台の日も見られるなど、数値目標としております 1 日当たりの感染者数 1 桁の達成まで、もう一息というところまで来ていると思っております。

県民の皆様、事業者の皆様、学校関係者の皆様方には、今後も気を緩めずに不織布マスクの着用やこまめな手洗い、そして消毒、三密回避、換気の励行など基本的な感染防止対策を今後も引き続き徹底していただきたいと思っております。また、県外との不要不急の往来自粛や、外出機会や県外出張の半減、児童生徒の健康観察の徹底など、特別集中期間における要請事項につきまして引き続き集中的な取り組みをお願いいたします。

それから、ワクチン接種についてです。本県のワクチン接種率は、全国的にも高い水準を維持しており、65 歳以上では 1 回目 2 回目ともに全国 1 位です。そして、ともに 9 割を超えて、数値があまり伸びなくなってきたと聞いておりますので、大方完了しております。

全世代を見ますと、9 月 5 日現在で 1 回目が 63.7%、2 回目が 54.4%となりまして、県民の 2 人に 1 人は、接種していただいたこととなります。一方、年代別では 40 代で約 36%、20 代から 30 代では約 25%となっております。今後は、若い世代の皆様にも 1 人でも多く接種していただきたいと考えております。

県としましては、政府に対し、本県のように接種が進む県には、早急に十分な量のワクチンを供給していただくよう、強く求めてまいります。

また、ワクチン接種について不安があったり、迷ったりしている方がおられると思っておりますけれども、市町村が案内する接種予約の開始などの情報にご留意いただきたいと思っております。

し、ワクチンの副反応など医学的・専門的な相談をされたい場合には、問い合わせをした
い場合には、県のワクチンコールセンターがごございます。「0120-567-690」でありまして、
これは土日祝日もやっております。8時半から18時まで受け付けております。

それから、厚労省の新型コロナワクチンコールセンターというのがありまして
「0120-761-770」です。これは土日祝日もやっております。9時から21時まで受け付けて
いるということですので、こういったお電話をご利用いただきたいと思います。

そのほか、県のホームページでもワクチンに関する Q&A を提示しておりますので、参
考にさせていただきたいと思っています。正しい情報のもとで接種をご検討いただければと
考えております。私からは以上です。

☆代表質問

記者

NHKの岡野と申します。よろしくお願ひいたします。2点ございまして、まず1点目な
のですが先ほど知事も言及いただいた特別集中期間なのですけれども、残すところあと5
日となりました。最近の感染状況を踏まえまして、現時点で知事はその効果についてどの
ように評価されているか教えてください。また13日以降の、期間の延長などを含めてどの
ようにお考えか教えてくださいいただけますでしょうか。

知事

はい。特別集中期間につきましては、県外との往来に起因する県内第5波を1日も早く
収束させ、県民の皆様の命と健康を守り、医療提供体制の崩壊を防ぐため、期間を限定し
て県民を挙げて集中的に感染拡大防止に取り組むため、実施しているものであります。

1日当たりの新規感染者数は、過去最多となった8月21日の69人をピークに減少傾向
にございます。最近では10人台の日も見られるようになってきました。新規感染者数の減少
に合わせ、直近1週間の10万人当たりの新規陽性者数も、一時は30.98人、これ8月23
日なのですが、政府のステージⅣの指標25人以上を大きく超えておりましたが、昨日
は14.01人となりました。ステージⅢの指標15人以上というのを下回る状況となつてござ
います。ちなみに、昨日時点でステージⅢの指標を下回っているのは、全国で3県のみ、
山形県と秋田県と愛媛県、この3県のみでございます。

県全体の病床占有率につきましても、一時は51.9%までなりまして、政府のステージⅣ
の指標50%以上を超える状況にありましたが、昨日は30.4%まで改善をしております。

こうしたことは、県民、事業者、学校関係の皆様方、本当に多くの関係者の皆様方が共
通の危機感を持って、一丸となって感染防止対策に取り組んでいただいている成果の表れ
と考えております。あと一歩でございますので、今後も引き続き感染防止対策を徹底して
くださるようお願いいたします。

特別集中期間の終了につきましては、医療専門家のご意見も伺いながらギリギリまで、

1桁の日がまだなっておりませんので、ちょっとギリギリまで県内の感染状況や医療の逼迫具合などを確認し、判断していきたいと考えております。

記者

ありがとうございます。2点目なんですけれども、副知事についてなんですけれども、9月定例会が迫っていますが、副知事の人選について、若松氏で再提案をされるのか、それとも別の人選をされるのかお聞かせいただけますでしょうか。また、自民党側との意見交換の進捗状況についても伺いたします。

知事

はい、副知事の件は、先週お答えしたのとほとんど変わっていないという状況です。9月議会に向けて、9月議会中には上程をしたいと考えておまして、鋭意努力をしております。また、お話し合いのことも意見交換ということでもご質問ありましたけれども、相手のあることで、なかなかそんなにはっきり申し上げられることではないのでありますけれども、意見交換をさせていただいたと思っております。その件で、あとは人選中ということであります。

記者

ありがとうございます、1点だけ追加で、先週も人選中とおっしゃっていただいたんですけども、従来、若松氏を余人をもって代えがたいということをおっしゃっていたんですが、それより若干トーンが落とされたのかなってという感覚も受けたんですが、その辺りはいかがでしょうか。

知事

そうですね、そのように皆様が受け取ったということだと思います。やはり、否決ということになってはまた本当によくないということも考えております。人事でございますので、センシティブなところもありますので、今の時点では人選中ということだけ申し上げたいと思っております。

記者

ありがとうございました。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

共同通信です。まず1点目、今、菅首相が退陣を表明されて、自民党の総裁選挙が大変盛り上がっていると思います。今、岸田前政調会長、高市前総務大臣、河野行革大臣など、

お名前が取り沙汰されている方がたくさんいらっしゃると思いますけれども、知事、どの方がいいというのが、もしあれば。もしなければ、どういったところを、コロナも含めてですけれども、次の総裁にどういう事を期待されたいか、その辺り伺えればと思います。

知事

はい、そうですね。本当に毎日のように報道されておりますけれども、まずもってですね、菅首相が今期で退任と、退陣を表明されたという時には、本当に正直言って大変驚きました。一生懸命コロナ収束のために懸命に、国民のために働いてくださったと思っております。ワクチン接種、この方向は本当に正しいと思っておりますし、今全国的に、新型コロナウイルス感染症、これが沈静化の方向に向かっているというのも、やはりワクチン接種というものも大変大きな要因の1つではないかと思っておりますので、本当に菅首相は一生懸命頑張ってくださいなという思いであります。それから、デジタル庁の発足ですとか、携帯電話料金の値下げ、またカーボンニュートラルもしっかりと宣言をされました。大きな方向をしっかり打ち出されたなと思っております。国民のために全身全霊、不眠不休で取り組んでいただいた、その事に本当に、衷心よりおつかれさまと申し上げたいと思っております。そして、最後までコロナ対策に頑張ると言ってくださって、今も専念してくださっていることに心から感謝を申し上げたいと思っております。

それで、これから本格化する自民党の総裁選ということになりますけれども、本当にさまざま報道なされておりますけれども、1つの党の代表を決める総裁選でありますので、コメントは差し控えたいと思っております。ただ、現在は、本当に新型コロナの第5波の真っ只中と言いますか、良い方向に向かっているかもしれないけど、まだ収束してはいない、第5波の最中であるということ、それでそのコロナの克服、経済雇用対策や国土強靱化といった諸課題が山積しているわけであります。新しくリーダーになられる方は、総裁になられる方はイコール首相になられる方というような事が、そういうふうになる訳でありますので、新しいリーダーが決まりましたら、新しい方にはコロナ禍である、こうした諸課題、これについてしっかりと取り組んでいただく、そして、現場に一番近い地方自治体、その意見、声をしっかりと国政に反映していただく、そういうふうにして、地方創生をしっかりと取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

記者

ありがとうございます。先ほどの冒頭の幹事社質問にちょっと関連するのですが、特別集中期間なのですが、従来から知事、1桁台というのを目標にされていたと思いますが、改めて、目標の明確なものを伺いたいですけれども、1桁が数日続くというようなイメージをされているのか、それとも今週内に一度そういう事があれば、だいぶ収束してきたと見られるのか、その辺の判断の基準みたいなものがあれば教えていただけますか。

知事

そうですね。大変難しいところであります。そもそも、大変厳しめの目標を考えていたと思っています。例えば、岩手県の場合ですと、やはり独自の緊急事態宣言といったようなことをなされているかと思えますけれども、あそこでは確か直近1週間の10万人当りの新規感染者数を10人以下というふうにしておられたかと思えます。それを例えば山形県に当てはめると、人口105万人でありますので、1週間で105人以下になればいいというような事になる訳であります。それで、105割る7にしますと1日15人以下ということになるんですね。だから、1桁というのはやはりかなり厳しめの目標だという事がお分かりいただけるかと思えます。その15人以下にはもう何回も、実は今日11時に発表される数字も15よりちょっと下回っております。だから、今日を含めますと4回位そういう数字は出ているのでありますけれども、ただとにかく1桁という事で、皆さんと県民挙げて頑張ってきておりましたので、とにかく1回でも1桁しっかり達成できたらいいなという思いでおります。そういう事でギリギリまでしっかり見ていきたいと思っております。

記者

先ほど、幹事社質問の中でも言及ありましたけれども、医療ひっ迫という面では、だいぶ緩和されてきている面があると思えます。

知事

そうですね。

記者

そこまでの評価というのは、今回もし仮にですけれども、1桁という形ではなくても、10数人という形が続いた場合に、明示的な目標というものには達成していないけれども、医療ひっ迫、医療崩壊を防ぐというものが主の目的だったと思えますから、それを踏まえて解除という事もあり得るという認識でいいのでしょうか。

知事

そうですね。やはり医療がひっ迫している、医療提供体制がひっ迫している、医療崩壊を何としても阻止しなければならないという強い思いで、特別集中期間を設定させていただき、県民挙げて一緒に頑張って取り組んでまいりました。その事を考えますと、やはり、医療体制がどうなっているかという事も非常に大きなところでありますので、新規感染者数、そして医療提供、ひっ迫度合い、そういった事も総合的に勘案して医療専門家の皆様の先生方のご意見も頂戴しながら、総合的に判断していきたいと思っています。記者さんのおっしゃったように、いろいろな可能性としては、そういった事もあると思っています。

記者

ありがとうございます。すみません、話題変わります。昨日、県警のほうから公表というか発表というか、記者レクがあったという事なのですけれども、警部に対して、無免許で逃亡していた、失踪していたというような事案がありました。最近ちょっと、なかなか県警の不祥事、他にも鶴岡での窃盗であるとか続いていると思いますけれども、知事、所感あれば教えてください。

知事

そうですね。本当に何回も、いろいろな不祥事の類のことがあったという事を報道で承知しております。今おっしゃった事については、私も昨日文書で報告を受けたところがあります。やはり、県民の命と安全・安心というところでは、非常に警察は大事なところでもありますので、今後もしっかり県民の安全・安心を守っていただくためにも、しっかりと取り組んでいただきたいと思いますし、県民の信頼というものを、やはり取り戻すような努力を、しっかりしていただきたいと思いますところでは。

記者

それに関連してもう1点。すみません、県の職員さんのほうでは、処分になればかなり公表は積極的にされているほうかなと思うのですけれども、私的な車の事故についての懲戒などが出た場合にもしっかりと広報されると思うのですけれども、今回いずれも書類送検ということもあつたりとか、県警さん独自の基準があるのかもしれないのですけれども、その辺りを踏まえて、基本的には最初から公表されていない事案が多々あったと思います。今回の昨日の事案については公表されたと思いますけれど、それ以外について公表がなかなか難しかったりという面があると思います。その辺りの報道に対すると言うか、県民への説明のこの体制についてどのように知事はお考えになっていますでしょうか。

知事

そうですね。知事部局では、今おっしゃったように、できる限り情報公開というような事をしているわけでありましてけれども、独立行政委員会ではあるのですけれども、そうですね。警察というのは全国の警察組織ですか、それで一定のルールのもとで公表とかそういった事を決めていると。今回いろいろ報道で知る事が多かったものですから、なぜこつちにそういうのが来ないのかなというような事を聞きましたらば、そういう全国的なルールのもとでおやりになっているというような事を聞いたところであります。

できる限り情報公開という方向に行くのが望ましいのではないかなとは思っているところでもありますけれども、どのようにされていくのかね、これからですね。ちょっと注視したいと思っておりますけれども、ダイレクトに私から何か申し上げるという事はできない、そういう立場にあるとも思っています。

ただ、公安委員の方というのは、知事が任命すると言うか、私、任命権もございまして、どういったお考えなのかななどというふうにも思っているところであります。具体的などころまではなかなか私からという、そういうコメントができる立場ではないと承知しております。けれどもやはり、県民の皆さんの信頼を得るという事は非常に重要な事だと思っておりますので、そういった観点から公安委員の皆様がどのようにお考えになるのかなとも思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

TUYの結城と申します。よろしく申し上げます。まず、集中期間のことでお伺いしたいのですが、集中期間、今先ほど知事のお話をお伺いしていると、当然県としての厳しめな目標である、新規感染者1桁という目標がまず1つあるというお話を重点的にされておりました。それ以外に、全国的な感染の状況であるとか、緊急事態宣言が継続される、その正式発表が今日にもされるみたいなお話もありますし、お隣、宮城県が、緊急事態宣言からまん延防止等重点措置のほうに移行するのではないかという話もあります。そういった周囲の状況等もやはり踏まえたうえでの、延長も視野にギリギリまで検討していると考えてよろしいのか、まず1点その辺りをお聞かせください。

知事

はい、わかりました。そうですね、県内の感染者の状況ですとか、医療のところがとても大きい要素でありますけれども、医療のひっ迫具合、そして、近隣県の状況ですとか、全国的な状況、そういった事も全部考えて、総合的にやはり考えて、なおかつ医療専門家の皆様のご意見も頂戴して、そしてそのうえで判断をしていきたいと思っております。

記者

先ほど、時期的なものをすごくギリギリまで待った上で判断したいとおっしゃっていました。具体的には、週末、金曜日位を目処にと考えてよろしいのでしょうか。実務的な事を考えるとそうかなと思うのですが。

知事

今日が水曜日でありまして、金曜日というと明後日なのですね。ギリギリと言うのは、やっぱり土日も含めたいと思っております。

記者

そうしますと、本当に直前まで状況を見定める必要がありになるという。

知事

そうですね。今例えば、飲食店の皆さんに時短を要請しているというような事ではありませんので、本当にできればギリギリまで。その前に1桁になってくれればいいなという思いがありますけれども、ギリギリまでちょっと見させていたきたいと思っています。

記者

ありがとうございます。あと副知事の問題でお伺いしますが、今、若松さんを特命補佐として任用されている事と、新しく副知事の人選を進めたうえで9月議会上程されるという目標ですね。知事としてはおそらく、その2つの目標をどうされるのかと、この状況をどうされるのかという事をいろいろ考えていらっしゃるかと思うのですが、この2つについて、今後知事はどのように展望されているのかを改めてお聞かせください。

知事

はい。先週お答えしたのと全く変わっていないのですけれどもね。

記者

それでも結構です。改めてお聞かせいただけますでしょうか。

知事

まず、副知事ということにつきましては、9月議会中に、どの時点になるかわかりませんが、9月議会中にやはり上程をして同意していただきたいと思っていますところであり、それに向けてしっかりと取組みを進めていきたいと。今はちょっと目の前のコロナ対策でいっぱいありますけれども、今申し上げた取組みを進めていきたいと思っています。あとコロナがとにかく今こういう状況であります。第5波の最中でもありますし、特命補佐ということについては、継続をしたいと思っていますところあります。

記者

あと、もう1点。その副知事の不在に関してなのですが、47都道府県の中で、我々が改めて確認したところ、日本の中で副知事が今不在なのは山形県のみと。しかもその状況が半年間も続いていると。地方自治法に定められている副知事が、もちろん罰則はないものの不在が半年に及んでいるという事に関して、今現在、知事はどのようにお考えなのか、改めてお聞かせください。

知事

はい。副知事不在という事については、本当にご心配をおかけしておりますけれども、さまざまな事情があって、2月議会からここまで延長となってしまいましたけれども、とにかく副知事人事に同意していただけるように、できる限りの努力をしてきたと思いますし、コロナの最中でありましたから、副知事の人事案件にかかりっきりというわけにはいきませんでしたけれども、ですが、できる限りいろいろお考えを聞いたり、いろいろな事をしてまいりましたので、県民の皆様も大変ご心配していただいていると思いますけれども、何とかこの9月議会で決めていただきたいと、人事は私でありますけれども、ご同意いただきたいと思っておりますので、本当にいなかったという事については、私自身誰よりも残念な思いをしておりますけれども、いろいろと総合的に考えながら、またしっかりと副知事という職に就いていただいて、しっかり仕事をしていただくという事を考えていますので、ご心配をおかけはしましたけれども、できるだけ早く解決に持っていきたいのでご理解いただきたいと思っています。

記者

最後に1点だけ教えてください。この半年間、副知事不在で、知事にとって業務上の不都合等はおありになったのでしょうか。それを最後に教えてください。

知事

そうですね。細かい事をいろいろ申し上げるわけにはいきませんが、いや、本当にいろいろ不自由はございました。

記者

ありがとうございます。

記者

山形新聞の小田と言います。新型コロナの対策について1点お伺いいたします。秋田県のほうでは感染拡大に伴って、県管理河川等でのバーベキューとか飲食を禁止するような措置を取っています。山形県のほうでは、そろそろ芋煮会のシーズンも始まりますけれども、その辺り、河川敷で大人数でやるような光景、例年にはありますけれども、今回、例えば秋田県のように、人数制限のお願いをしたりとか、そのような知事としてのお考えは何か現時点でありますでしょうか。

知事

はい。その芋煮会というのが、本当に山形県の食文化とも言える大事なものだと思っておりますので、本当にずっとそのことを考えてまいりました。去年はちょうど、そんな

なに県内で感染していないというようなことであつたのですけれども、今年はとにかく特別集中期間というものを設けたぐらいのことがあつて、8月1か月で1000人を超す新規感染者が確認されたというようなこともありましてね、芋煮会どうしたらいいのかなというようなことで、県民の皆さんが本当に楽しみにしておられるだろうなというのと、本当に私の中ではせめぎ合つていたというか、ずっとずっと考えてきたのですけれども、医療専門家の皆様にもご意見を頂戴したり、そういったことをやってきました。

それでお答え申し上げたいと思いますけれども、他県ではバーベキューなど野外での会食に起因する感染事例が多数確認されております。実は本県でも数例それが確認されております。屋外だから大丈夫だということはないのですね。油断してはいけません。そして普段会わない方と、友人であっても普段そんなにしょっちゅう会つてゐるわけでもない友人とマスクを外して会話、会食を行つていたという事例もあつたということでもあります。今申し上げたように、本当に屋外でも感染するということもありますので、屋外の場合でも大人数での会食や普段会わない、普段会っていない友人や知人との会食、そしてマスクを外した会話というのは感染リスクは高くなるということで、それははっきりしておりますので、十分注意をする必要があると考えております。

例年であれば、これから10月にかけて県内各地で芋煮会が開催されるそういうシーズンでありますけれども、河川敷などで芋煮会を行う際には、ご家族など普段一緒にいる人と少人数・短時間で行つて、会話する際はマスクを着用するといったことなど、しっかりと感染防止対策を徹底してくださるようお願いしたいと思います。屋外だから大丈夫ということをございませぬ。いつも一緒にいるご家族の方であれば、なんとか大丈夫だろうというようなことを聞いているところであります。

私もやはりこの状況で、芋煮会大丈夫ですよ、ということは申し上げられない。今年だけなんとか我慢をしていただいて、それぞれのご家庭で楽しんだり、あとご家族で河原で芋煮会というのはありなのかなと思つております。今年だけ、県民の皆さんに、やっぱり感染しないためにご自分を守る、そして周りの方も守るというようなことで、本当に例年の年にしていただければと思つております。

記者

すいません、1点。少人数・短時間というのは、期間中は確か3人以内で1時間というようなお願いを。

知事

それは特別集中期間ですね。

記者

特別集中期間、それとはまた別でということですか。

知事

その特別集中期間が、例えば終了すれば、元に戻って、5人以上が大人数ということになっていますので、4人以下ということにまた戻るかなと思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

時事通信の村上と申します。新型コロナワクチン接種が進んだ場合の行動制限の緩和について伺います。政府の分科会が、ワクチン接種が済んだ方を対象に行動制限の緩和ということを提言しましたが、山形県では全国を見ても非常に接種率が高いということがあります。これについて知事のお考えをお伺いしたいのと、また今後県独自にそうした接種が済んだ方に対して行動の制限、他県の移動なんかを緩和するというようなお考えがあるのかお聞かせください。

知事

はい。報道によりますと、政府では今回の分科会の提言を受けて、今週中にも行動制限緩和の行程表、ロードマップを取りまとめるものと承知をしております。まずは政府として具体的な実施時期や緩和の条件・内容などの方針を明らかにしていただきたいと考えております。なお、今回の提言では、ワクチン接種率の向上、ワクチンの普及が行動制限緩和の大前提となっております。

県としましては、行動制限の緩和が1日も早く実現して地域経済復活の足掛かりとなるように、政府に対して若い世代も含め希望する方が円滑かつ速やかにワクチン接種を受けられるよう、十分なワクチン供給を求めたいと思っています。また、市町村や関係機関・関係団体と連携して、ワクチン接種をしっかりと推進していきたいと思っていますところであります。

独自のと言いましても、まずは政府の方針、具体的な内容といったことを、それが明らかになった段階で、それを見た上で検討するかどうかということになるかと思えます。

記者

ありがとうございました。

記者

読売新聞の吉田です。先ほどの芋煮会に関することなのですが、知事、家族で4人以下というようなそういうお考えを示されたと思うのですが、例えば3世代同居とか、あるいは2世代であっても5人以上のご家族がいらっしゃるが、そういった家族の人数、

それがいても一応4人以下で家族でやってくださいというようなお願いというか、そういうことでよろしいのでしょうか。

知事

いえいえ、失礼しました。家族というのはやはり1つの単位でありますので、5人であったり6人であったりするかと思えます。いつも一緒に暮らしているご家族であれば、何人というようなことではないと思っています。ご家族であればというふうに申しあげました。あと、ご家族の場合は何人というのは外してもいいのではないかと考えておりますけど、ご家族でなくても普段一緒にいる人というのが、ご家族でない場合は4人というようなことはやはり守って、例えば飲食の場合なんかはそのように申しあげてきましたですね。

飲食で申しあげてきたのは、普段一緒にいる、それは家族でなくても職場の人であったりするかなと思いますね。そういう方であれば4人以下で短時間でと、しかもできる限り感染対策をしながら、しかもできれば認証店といったところで、というようなことを申しあげてきたかなと思います。今、記者さんがお尋ねの芋煮会であれば、家族の場合は4人ということではなくてよろしいかと思っています。

記者

家族であればやってもいいんじゃないかということと、4人というのは普段いる、例えば特別集中期間だと3人という目安を示されていますけども、同様の考え方で普段一緒にいる人なら4人以下なら認めるというか、それくらいに抑えてくださいという感じですかね。

知事

そうですね、芋煮会に関してはできる限り感染を防止するということが大事でありますので、家族はとにかく申しあげたのでよろしいかと思えますけど、その別の場合の、例えば職場というようなことで今記者さんがお尋ねになったかと思うのですが、特別集中期間の間はできれば3人というようなことを申しあげましたし、それが終了すれば4人というようなことであります。飲食店同様ですね、やはり芋煮会もそのようにして気をつけていただきながら、やっていただくということかなと思っています。

記者

副知事で1点、自民党側は、若松氏を特別補佐で置き続けるということに対しても反対の立場を言っておりますけれども、今、人選中ということで、副知事に関しては別の方というトーンかなと思うのですが、その特命補佐として置くということに関する自民党の立場に対しての知事の考えというのを改めてお聞かせください。

知事

そのことに関しては、今ちょっとコメントできないかなと、差し控えさせていただきたいと思っています。まもなく議会も始まりますし、今あまりセンシティブなことについては申し上げないほうがいいかなと思っています。

記者

毎日新聞の小寺と申します。副知事人事についてなんですけれども、ずばり若松さんについては諦めたということでしょうか。それとも若松さんを含めての人選中ということなのでしょうか。

知事

そこをお知りになりたいという気持ちもわかるのですけれども、非常にセンシティブなことなので、具体的にお答えはちょっとね、今できないかなと思っています。ただ、ずっとお答え申し上げてきたその流れの中で考えていただければと思います。

記者

今お聞きしている限りでは、6月の定例会が終わってから副知事人選について進展があるようにはちょっと思えないようなところがあるのですが、どのように進展をしていますか。

知事

そうですね、やはり議会が終わってから意見交換をさせていただいたというのは大変大きかったと思いますし、そういったことも踏まえながら、私自身もいろいろと検討しながら人選中ということなので、大変大きな進展が、目には見えないのですけれども、あったと思っています。

記者

明後日、金曜日に議会運営委員会もありますけれども、いつぐらいの時点で副知事の案件についてはご提案なさる予定でいらっしゃいますか。

知事

はい、そのことについてはただいま検討中ということで申し上げたいと思います。